

様式1 令和5年度 山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	一人一人の心に寄り添った学習活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、自信をもって様々な事柄に意欲的に取り組む態度を養い、社会の中で主体的に生きていくために必要な「生きる力」を育む。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園校長 中村 知佳

本年度の重点目標	基礎学力の定着と学ぶ楽しさを感じることのできる授業の実践
	様々な体験を通して、自分を大切に、他を思いやる心を育む学習活動の充実
	プラザ内他機関を含めた関係機関との連携推進
	本校についての理解を深めていただくための取組の推進
	病弱教育に関する専門性の向上とセンター的機能の充実 働き方に対する教職員個々の意識改革

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価(1月1日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	基礎学力の定着と学ぶ楽しさを感じることのできる授業の実践	「やまなしスタンダード」における授業づくりの視点を踏まえ、個別の教育支援計画や個別の指導計画にのっとった授業改善の取組	校内研究での成果と課題の検討
		個別授業から集団授業へ移行とICT教育のさらなる充実	一人1実践の報告
2	様々な体験を通して、自分を大切に、他を思いやる心を育む学習活動の充実	授業や特別活動(集会、委員会活動、うぐいす委員会)や総合的な学習の時間等における、小集団で他者と協力して活動の充実	アンケート等による検討
		様々な体験的学習を実施し、他者と自分との違いや、様々な考え方に触れ、協調性や社会性を育む	文化的・体育的行事、校外学習等の教育活動の充実
3	プラザ内他機関を含めた関係機関との連携推進	子ども心理治療センター、児童相談所、こころの発達総合支援センターとのよりよい連携	管理職打ち合わせ、移行会議等の企画・運営の協力
		各機関が行う相談支援事業への協力・帯同	こころの発達総合支援センター、児童相談所等からの要請による帯同支援
		退所後の生活を見据えた関係機関との連携についての検討・追支援	児童相談所、地域の小中学校等との連携・支援体制の構築

学校関係者評価	
実施日(令和5年2月1日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> うぐいすの杜学園で学んでいる子供たちのほとんどは、集団になじまず、孤立化の傾向が認められる。また、入学あるいは転校してからのまでの教育の空白期間は、個々の子どもでも違い、同じ学年としても、教育段階は違い、苦勞が絶えないと思われる。授業に関しては、子どもの興味に合わせて、創意工夫していることは、日々の申し送りで聞いている。引き続き、個別と集団の授業を取り入れながら、子どもたちが学ぶ喜びを実感できるような授業を継続してもらいたい。 ICTの活用が充実してきている様子がうかがえる。情報活用能力の向上とあわせてICTの活用をさらに充実していけるとよいのではないか。 児童生徒の状況に応じた個別的な関わりがなされている。集団(同年代)での関わりによる成長や発達も重要であるため、実施方法や内容の拡充が求められる。 ICT教育 ICT機器の活用をすすめる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験を通じて心を育むことは大切である。学部集会、いきいき体験教室、林間学校、修学旅行、うぐいす祭、音楽を楽しむ会等を行い、子どもたちは喜んでいて。一方で、変化に弱い子どもたちが多く、行事前にメンタル不調が強まる子もいる。行事などがある場合は、早めに、子ども心理治療センターに相談して欲しい。 授業や各種活動を工夫して実施している。また、人員確保についても具体的に対処している様子がうかがえる。 児童生徒同士の関わりによる協調性や社会性の習得の機会がより増やされるとよい。 在籍する児童生徒は多様な背景(成育環境、発達上の課題・困難)を有しているため、その背景理解をしたうえでの対応が必要である。 うぐいす祭、笑顔がステキだった。
4	<ul style="list-style-type: none"> 心理治療センターとは、朝屋の申し送りで、子どもたちの日々の状態を両施設で情報共有できていた。また、担当レベルでの話し合いや会議を通じた連携もできていた。プラザ内連携は、4つの施設間における連携となるが、個々の施設の考えや機能を鑑みると、プラザ全体の連携は非常に難しい課題だと思っている。引き続き、お互いの機能を尊重した施設間連携を行ってきたい。 関係機関との情報共有と検討の機会が定期的に設けられていてよい。一方で、教職員や保護者のアンケートからは連携の課題があげられていた。連携が図りにくかった具体的な要因の振り返りと共に、特別支援教育コーディネータの役割や具体的な対応についても検討されることが望ましい。 拡大治療支援会議に関わる教員の負担も増えることが予想されるため、学内でのサポート体制や業務整理が求められる。 心理治療センター、こころの発達総合支援センターについて学校評議員もしっかり勉強したい。

4	本校についての理解を深めていただくための取組の推進	地域清掃活動を含めた地域交流の促進	地域清掃・作品の展示等 地域との関係強化
		災害発生時の一時避難所としての役割の確認	一時避難所運営マ ニュアルの作成
		積極的な情報発信	授業、学校行事等に関する情報の発信とHPの更新、学校説明会実施
5	病弱教育に関する専門性の向上とセンター的機能の充実	病弱教育、児童生徒理解、ICT活用等、専門性向上に関するの研修会の実施及び情報提供	各種研修会の計画的な実施
		病弱連携会議の企画・運営の協力を通じて山梨県内の教職員に病弱教育を還元	病弱連携会議(心身症部会)の研修会の企画・運営
6	働き方に対する教職員個々の意識改革	出退勤記録による勤務時間の管理	全職員時間外労働月平均40時間以内
		会議、業務等の効率化の推進	業務分担の平準化 ICTを活用した業務の効率化 報告書等の簡略化

A	地域への情報発信をHPや学園だよりを配布することでできている。清掃活動については学園内を定期的に行っている。 限定されている中だが、学園祭の様子を見てもらい子どもとの交流を深めてもらった。	大変機密性の高い部分もあるので活動が限定的である。
	一時避難所の協定は締結もできた。自治会にはどう運用してもらおうか検討してもらっている。	地域自治会との連携を更に図る。今後さらに運用に努めたい。 一時避難所に関する協議を通して、地域と本校職員との交流を深め、本校に対する理解と協力を得る。
	ホームページの更新を頻繁に行い、授業の様子や学校行事等について情報発信することができた。 相談支援部主催の研修会や学習会が主催され本校の理解を進めている。	地域に回覧している学校だよりを通して、学校ホームページを紹介し、アクセス数を増やす。 もっと広く学園の活動を紹介したいが、どうしても個人情報の機密性があり限定されてしまう。
A	開校以来初の学校説明会・県学会が実施できた。また、指定地域対象学習会を実施し、本校の教育実践・成果を紹介し県内教職員への病弱教育への理解、資質向上に努めた。	県内特別支援学校の特別支援教育コーディネーターおよび県内教職員に対して、学校説明会及び見学会を開催して本校に対する理解を広げ、連携を進める。
	夏の病弱の学習会を本校が主催で開催されて、心理治療センターの所長や子どものこころサポートプラザセンター長から講演してもらって県下に病弱教育を還元できた。	病弱学級ばかりでなく情緒学級にも門戸を広げて更に還元を図っていきたい。
A	午後7時以降残留している職員の職務内容について把握し、面談を通して働き方に対する意識改革を図り、校務の平準化を検討した。 時間外勤務時間については、県の目標は月45時間内であるが、本校は40時間内を目標に取り組み4月当初40時間以上であったが、目標が達成できた。	教職員評価等を受けて、次年度の校務分掌の在り方について、改廃を含めて検討を進める必要がある。
	資料の事前配布、報告書の整理統合、議題と連絡事項の精選、校務のICT化により、会議の効率化を図ることができた。 働き方改革に関する教職員アンケートでは肯定的な意見が100%であった。	デジタル教科書の利用促進、指導案のデータベース化等を通して、授業準備にかかる負担の軽減を進める。 プラザ連携に必要な書類等の整理、簡略化等も含め負担の軽減に努める。

4	<ul style="list-style-type: none"> 地域への情報発信や学園だより、地域との連携は重要となる。引き続き、子どもたちの個人情報に注意しながら、情報発信をお願いしたい。 これまではコロナ禍で制限が大きかった状況に対して、今年度は地域とのつながりや活動が広く行われるようになったことは望ましい傾向といえる。 個人情報保護等に留意しつつも、貴校や児童生徒の成長や頑張っている姿・支援ニーズを知ってもらう機会を増やせるとよい。児童生徒にとって、地域や多様な他者との関わりの機会(自分を見守る多くの存在との出会い)は重要である。 地域の回覧で花壇の紹介 地域の銀行、郵便局に展示 地域の文化祭10月に行う。見学に来て欲しい。 一般の展示「書道、写真、陶芸」、デイサービスあっとほーむ「折り紙」、山梨ダルク「書道、仏画」など。地域の催しを紹介していきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> うぐいすの杜学園の知名度は、まだ十分ではない。その中で、「開校以来初の学校説明会・県学会が実施できた。」ことはすばらしい。うぐいすの杜学園を必要としている子どもや家族に情報が伝わるようにこれからも情報発信をお願いしたい。 病弱教育への理解・資質向上に向けて、工夫されている。 センター的機能として近隣学校等が求めるニーズを把握していくことも必要である。 病弱教育、思いやりが一番。
4	<ul style="list-style-type: none"> 現在、ほとんどの職場において、働き方改革に取り組むことは必須のテーマである。特に、時間外勤務への取り組みは非常に重要であり、かつ、仕事の質を担保しながら上記取り組みを達成することは難しい目標である。その中で、「県の目標は月45時間内であるが、本校は40時間内を目標に取り組み4月当初40時間以上であったが、目標が達成できた。」ことはすばらしい。引き続き、ICTを活用しながら、業務分担の平準化、業務の効率化を推進して欲しい。 教職員の負担を軽減することや、働きやすい職場づくりが行われている。 教材等の情報共有システム(学校内外)の構築等により、特に若手教員の育成につながる対応も今後の課題として検討されたい。 働き方改革 実施100%

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。